

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		08 01 01	中期総合計画主要施策番号		2 - 02		担当課	部・課	観光部観光企画課
事業名		エリア10観光振興プロジェクト事業				内線		3516	
						E-mail		kankoki@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	広域行政圏ごとに、市町村、観光団体や観光事業者など関係者が連携し、地域が主体的に地域特性を生かした観光振興に取り組める体制づくりを行い、誘客の促進と地域の活性化を図る。							
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 県土が広く、南北に長い長野県は、地域それぞれに多彩な特性を有している。このため、その特性を生かした観光振興施策を地域挙げて取り組む必要があるが、現在は市町村や観光に携わる事業者等の連携が十分とれていない。							
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 地域で観光に携わる主体が一堂に会し、地域特性を生かした観光振興策を議論する場がなく、地域内の連携が不十分であった。							
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 各地域の行政、観光関連団体、観光事業者、大学などが連携し、主体的に地域特性を生かした観光振興に取り組める体制づくりを行う必要がある。							
	事業内容	・10広域行政圏ごとの地域観光戦略会議の設置、運営 ・地域が一体となり観光振興策に取り組む意識の醸成を図るために戦略会議が行う事業の経費の負担							
実施期間	H20 ~		根拠法令等		「観光立県長野」再興計画				
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	広域行政圏ごとの地域観光戦略会議の設置により、地域が主体的に地域特性を生かした観光振興に取り組める体制づくりを行い、誘客の促進と地域の活性化を図る。		・地域観光振興戦略会議を設置し、地域の各主体が一体となって観光振興施策に取り組める体制づくりを行うこと。			・10広域行政圏すべてで、地域観光戦略会議が設置され、地域の各主体が一体となって観光振興施策に取り組める体制づくりができた。 ・地域観光戦略会議の設置を契機として、観光振興のための新たな取組が始まった地域もある。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円		2,080	1,370	国庫・県単 県単		
	決 算 額 (B)		千円		1,723		実施方法 直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円		1,723	1,370	歳出節別		
	概 算 人件費	従事する職員数	人		0.24	0.24	内訳等		
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円		3,439	3,086	(単位: 千円)		
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	地域観光戦略会議の開催数		回		20	20	・各地域観光戦略会議毎に、観光関連の研修会への参加や、関係団体との意見交換等を行った。		
	分科会の開催		回		48	20	・エリアによっては、観光振興に向け、地域が一体となって取組む事業が新たに実施された。		
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	・事業実施初年度であり、市町村や観光事業者などが連携し、地域が一体となって観光振興に取り組む意識が芽生えてきており、このような動きを確実なものとするため、県では引き続き事業を進めるとともに、今後の展開を確認していく必要がある。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括		・お盆の期間中のパーキングエリアへの臨時観光案内所の設置(佐久)、地産地消に向けた宿泊業者と農業関係者との連携(上小)、「木曽十一宿街道づえ」の作成(木曽)などに取り組んだ。 ・各広域行政圏毎に、地域観光戦略会議が立ち上がり、地域の特性を生かした観光振興の取組みがスタートしたので、今後の推移を見る必要がある。							